

どことなく懐かしい面影

古を求めて



里見義実の木像(杖珠院)

南房総市に数多く眠る文化財

「南総里見八犬伝」で知られる戦国大名「里見氏」。

数々の歴史が語り継がれ、各地区に文化財として残っています。

初代里見義実の菩提寺である白浜町杖珠院、また里見氏の信仰が厚かった石堂寺は、創建以来隆盛を極め、県内に現存する最も古い建築物と考えられ、国指定文化財となっています。

このほかに、日本で唯一、料理の神様がまつられた高家神社。歴史も古く「料理の祖神」として崇められています。

史跡や文化財にふれるたび、安房一帯を平定し、この地の礎を築いてきた先人たちに思いをはせることができます。



高家神社



木造大黒天立像(真野寺)



石堂寺多宝塔



地獄極楽絵図



“子の神”由来記



里見文書



国指定重要文化財 石堂寺本堂



小松寺



旧尾形家



須藤家



上三原の大樟



賀茂の三番叢



白間津大祭



千倉川口ミノコドリ

里見氏と南総里見八犬伝



伏姫の籠穴

南総里見八犬伝は、半紙本106冊におよぶ大作であり、江戸時代の戯作者滝沢馬琴の代表作です。この作品は、馬琴が48歳(文化11年/1814年)の時に出生してから75歳に至る28年もの歳月をかけ刊行されたものです。犬という字が姓にあり、「仁・義・礼・智・忠・信・孝・悌」の八つの霊玉をもつ八犬士が活躍する物語で、中国の「水滸伝」や、戦国時代、房総を十代にわたって支配した里見氏の史実などを参考に書かれた伝奇小説です。

八犬伝は架空の物語ですが、富山地区には、伏姫の籠穴や犬塚、八房誕生の地など里見八犬伝にちなんだ場所が多くあります。



里見義頼の墓(光厳寺)

もうひとつの伝説

源頼朝再起をかけた地



岩井の蘇鉄

石橋山の戦いに敗れた源頼朝は房総の豪族、安西影益を頼りに海路安房に逃れてきました。

その時の居城は「吾妻鏡」から推察すると、三芳地区の池之内にあった平松城だと考えられます。

傷を癒し、再起をかける頼朝はその後、兵を集めながら南房総市を北上していきます。南房総市のいたるところに残されている頼朝の足跡。岩井の蘇鉄などはその時の伝説として今も残っています。

※「資料編」P55市内指定文化財一覧表をご覧ください。